

## 第3回弟子屈町食育推進会議

と き：平成21年 2月 5日(木)午後1時30分

と ころ：弟子屈町役場委員会室

### (1) 開 会

### (2) 会長あいさつ

### (3) 協議事項

- ・ 弟子屈町食育推進計画〔原案〕について

- ・ 今後のスケジュールについて

本日の協議事項を整理。

広報紙3月号で、食育について紹介。計画案に対する意見募集(パブリックコメント)

ホームページで紹介。意見募集

3月下旬、若しくは4月に第4回食育推進会議

(第5回食育推進会議)

弟子屈町食育推進計画の決定、冊子づくり。

計画に沿った実践活動の開始

### (4) その他

### (5) 閉 会

弟子屈町食育推進会議委員

|    | 氏名    | 所属団体役職名等                | 備考 |
|----|-------|-------------------------|----|
| 会長 | 徳永 哲雄 | 弟子屈町長                   |    |
| 委員 | 素川 敏幸 | 弟子屈町校長会 広報部長（学校保健協議会会長） |    |
| 委員 | 種田 敦子 | 弟子屈町学校保健協議会 副会長、調査研究委員長 |    |
| 委員 | 田邊 千絵 | 弟子屈高等学校 教諭              | 欠席 |
| 委員 | 木村 孝博 | 弟子屈町連合父母と先生の会（第P連）会長    |    |
| 委員 | 畑中 光文 | おひさま保育園保護者の会 会長         | 欠席 |
| 委員 | 中田 士郎 | 弟子屈町自治会連合会 副会長          |    |
| 委員 | 伊藤 律子 | J A 摩周湖 女性部 部長          | 欠席 |
| 委員 | 松岡 和義 | 弟子屈町商工会 理事              | 欠席 |
| 委員 | 及川 宏  | 標茶地方食品衛生協会 川湯支部長        |    |
| 委員 | 若月 玲児 | (社)北海道全調理師会川上支部 幹事長     |    |
| 委員 | 羽石 敏子 | 弟子屈消費者協会 理事             |    |
| 委員 | 坂本 直子 | J A 北海道厚生連 摩周厚生病院 栄養科長  |    |
| 委員 | 佐藤 宏幸 | 高台歯科クリニック 院長            | 欠席 |
| 委員 | 館 昭子  | 弟子屈町健康づくり推進委員会 1ブロック代表  |    |
| 委員 | 笹島 久美 | " 2ブロック代表               |    |
| 委員 | 家久ケイ子 | 公募委員                    |    |
| 委員 | 吉備津安夫 | 農林課長                    |    |
| 委員 | 青木 裕志 | 保健福祉課長                  | 欠席 |
|    |       |                         |    |

弟子屈町食育推進会議 事務局

| 氏名    | 所属           | 備考 |
|-------|--------------|----|
| 赤間 幸男 | 弟子屈町農林課長補佐   |    |
| 山口 智明 | 弟子屈町農林課農政係長  |    |
| 佐々木章丞 | 弟子屈町農林課農政係主事 |    |

弟子屈町食育推進会議 関係部局職員

| 氏名    | 所属                         | 備考    |
|-------|----------------------------|-------|
| 山口 洋子 | 弟子屈町保健福祉課長補佐兼健康推進係長        |       |
| 松岡 厚子 | 弟子屈町こども未来課子育て支援センター子育て推進係長 |       |
| 高田 員可 | 弟子屈町保健福祉課健康推進係             | 管理栄養士 |
| 本間 尚行 | 弟子屈町教育委員会指導室長              |       |
| 山本 正裕 | 弟子屈町教育委員会管理課長補佐            |       |



## 処理顛末

### (1) 開会

### (2) 会長あいさつ

徳永町長より。12月24日に提示した「弟子屈町食育推進計画」の2回目の手直しとなる。北海道の食料自給率は200%と高い。良い食べ物を摂ることによって長生きとなる。弟子屈町の特性を活かした計画書となるよう期待する。

### (3) 協議事項 - 弟子屈町食育推進計画(原案)について

事務局から説明。前回のたたき台に対して意見のあった点と、事務局での文言修正、追加など説明。修正した主なものは次のとおり。計画書の項目ごとに意見集約を行った。

- ・学校での取り組み
- ・食べることの大切さ、感謝の気持ち
- ・良く噛むことの大切さ
- ・低体重の赤ちゃんとダイエット
- ・年次計画、アンケート調査の取り扱い
- ・国民健康栄養調査の新しい数字(朝食欠食率、野菜摂取量など)
- ・文言整理、用語解説の整理など

#### 第1章 計画の策定にあたって(P3~P5)

文言をシンプルに修正。特に修正意見なし。

#### 第2章 全国の「食に関する現状と課題」(P6~P15)

世界の飢餓問題、食べ残し問題、作物のごとの食料自給率、低体重赤ちゃんと母親のダイエットなど追加・修正。

委員) 弟子屈町での食料自給率は?

事務局) 集計した数字はない。牛乳、小麦などは相当の自給率だが、全体として数字を示すには、無理がある。

会長) 北海道全体で200%の食料自給率となっている。

委員) 町内産農産物に対して、農薬の現状を公表する予定はないのか?

事務局) ポジティブリストの制度で農薬の使用は制限されているが(P51参照)、外に向けて安全をPRするため、JAと協議したい。パソコンなどを利用することで、作業は難しくないと思う。

委員) 鳥インフルエンザに対して、弟子屈町では対策を考えていないのか?

事務局) 渡り鳥の対策が課題であり、市町村単位で対処できるものではない。厚生労働省や北海道からの指示で対応していく。

委員) 観光地であり、感染を防ぐため患者をどう隔離して病院へ搬送するのか、そういった対応策はないのか?

委員) 鳥獣保護員を努めているが、防疫を担当する北海道としてきちんとマニュアルを定めている。

会長) ウイルスのタンパク質へ直接効く新しいワクチンが開発されたようだ。いざとなったときの対応は、食育とは別途対策を取っていく。

### 第3章 弟子屈町の食生活・食環境の現状と課題（P16～P25）

メタボリックシンドローム、学校の家庭科、幼稚園での取り組みについて追加記載。

委員）朝食を食べない理由の中で、「食事が無い」とあるが、どのようなことか？

委員）母子家庭などでは、朝ごはんを作っていないところもあるようだ。

委員）給食の時間が短いようだが、長くしたら食べ残さないようになるのでは？

委員）学校では、十分な時間が確保されている。

委員）旬な食べ物は安いですが、毎日食べると飽きてしまう。サンマ・トウキビ・ジャガイモなど、Aコープで料理レシピを配るべきではないか？

委員）JA職員だが、今回PTA代表として出席している。組合長へ報告したい。

### 第4章 弟子屈町が目指す食育（P26～P43）

良く噛むこと、食べ物への感謝の気持ち、料理教室、新しい給食センターでの地産地消、野菜の目標摂取量など追加、修正。年次ごとの取り組みについては削除した。

委員）昨年7月の小泉武夫氏の講演会で、地域の食ブランドなどについて説明があったが、弟子屈町では何もないのか？

委員）JAでは、そば焼酎など新しい物を作っている。

会長）渡辺体験牧場で「おっぱいミルク」も出来たが、弟子屈町の酪農の歴史は50年で、ヨーロッパの1000年とは比べられない。歴史文化がまだまだである。

委員）P30のジャガイモ料理の目標があるが、肉ジャガのようなレベルか？高校生の目標は100%だが、成人では90%に落ちている。

事務局）「簡単なジャガイモ料理」とかの表現に修正したい。高校の家庭科では料理実習の時間があるが、成人ではなかなか難しい。弟子屈町がジャガイモの産地であることから、地域特性として項目を設けたい。

委員）80%でどうか？

委員）野菜摂取量について目標が設定されているが、野菜嫌いの対策としてレシピを町民に配ることをしてはどうか？

事務局）野菜嫌い対策として料理教室などを実施してきている。レシピは広報紙で検討したい。

委員）計画書は良くまとまっている。地産地消について知らなかったことがある。Aコープでは、店舗に並ぶ前の新鮮な野菜などが、朝と午後の2回配達されている。JAで、ぜひとも広げて欲しい。

事務局）P28のカロリー計算については、不要と考える。「元気でしかが21」では、「自分にあった食事量を知り、1日3食きちんと摂る」のような表現にしている。

委員）食育計画書にカロリー計算の目標を設定するのは、勇気があると考えていた。P12のカロリー計算の仕方は残して良い。

事務局）高校の委員が欠席だが、事前打合せしたところ、高校の授業ではカロリー計算は教えているが、食育については、家庭科の2年後期で少し教えている程度で、食事バランスガイドについては、高校の授業では踏み込めないようだ。

委員）P32からの「年代ごとの実践」とP37からの「地域・学校による食育」の項目の整合性を取って欲しい。P39幼稚園の「家庭と連携し、基本的な生活習慣を身につ

けましょう」を学校にも追加。P 4 0 農業体験を体験学習に。

委員) P 4 1 「消費者団体の食育」で、会員活動が限られているので、サポート体制の中に、会員を増やすことを追加して欲しい。

委員) P 4 3 の年次計画を削除することについて、学校では、年次計画を立て、実施し、検証することが多い。人事異動で担当者が変わっても継続して5年間の計画を実践していくために、具体的な年次計画を記載して欲しい。

委員) 弟子屈町で休耕地はどれくらいあるのか？観光で何か活用できないか？阿寒湖畔では複合施設「まりむ館」ができたが、町長にそのような考えはないのか？

委員) ここは食育の会議の場である。観光関係の会合で議論すべき。

事務局) P 4 0 記載のように、観光客への弟子屈町食材提供が求められる。

委員) 全体的に文面の裏付けをして欲しい。

委員) アンケート結果については、表では見づらいので、円グラフなど分かりやすいものにして欲しい。

事務局) 以上の点を整理し、文面の表現などは、各担当職員と詰めて、次回の食育推進会議へ臨みたい。

#### ( 4 ) 協議事項 - 今後のスケジュールについて

今回の意見を受け、修正など行い、次回の開催としたい。1 ~ 2月ずれるかもしれない。

#### ( 5 ) その他